

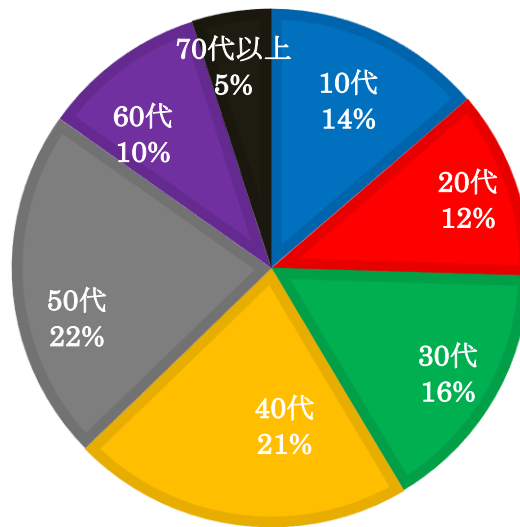
2017年度 J-BADO 結果

※医療観察法病棟を除く全病棟の新規入院

2017年4月～2017年6月) 新規入院例 (入力数)

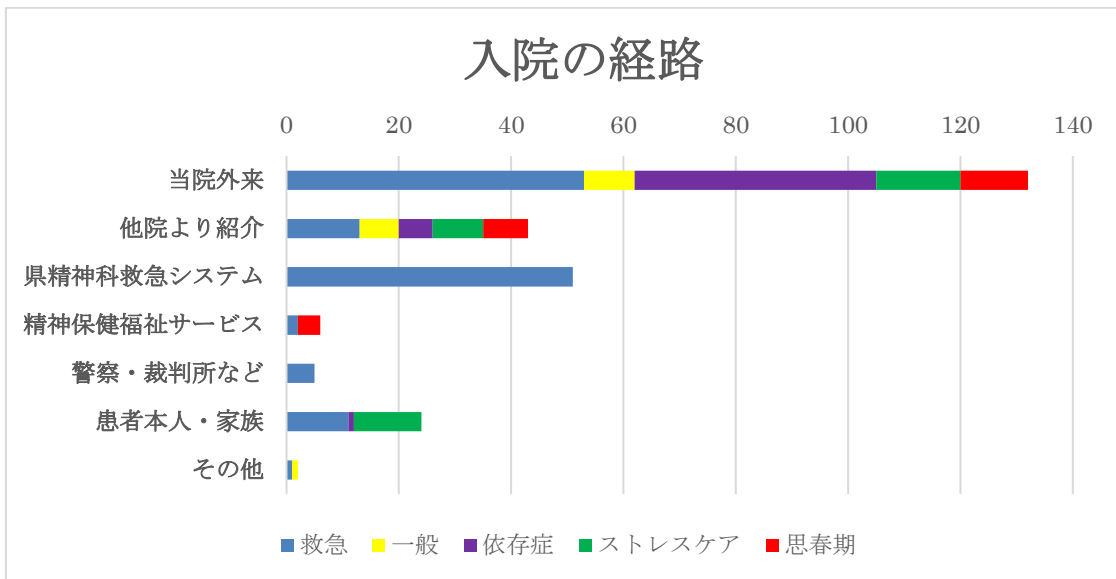
	救急	一般	依存症	ストレスケア	思春期	全体
入院数	136	17	50	36	24	263

年代別入院割合



50代、40代の入院が最も多い。

10代の多くは、思春期病棟への入院である。

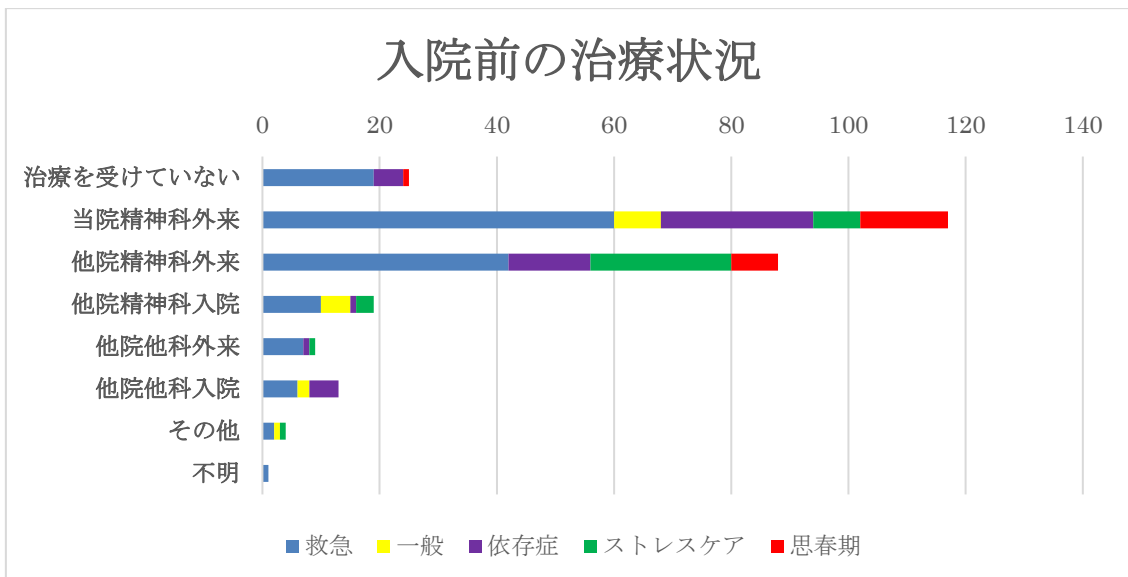


全体では当院外来患者が最も多い。

精神科救急病棟では、県精神科救急システムが、当院外来経由と同数である。

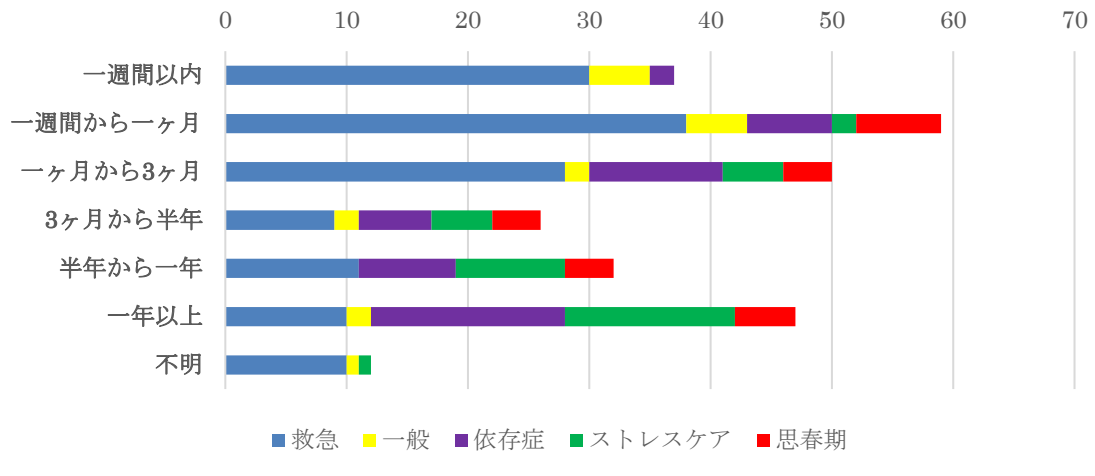
依存症病棟はほとんどが当院外来を経由しての入院である。

ストレスケアでは、当院外来経由のほか、他院からの紹介と患者本人・家族からの依頼が多い。



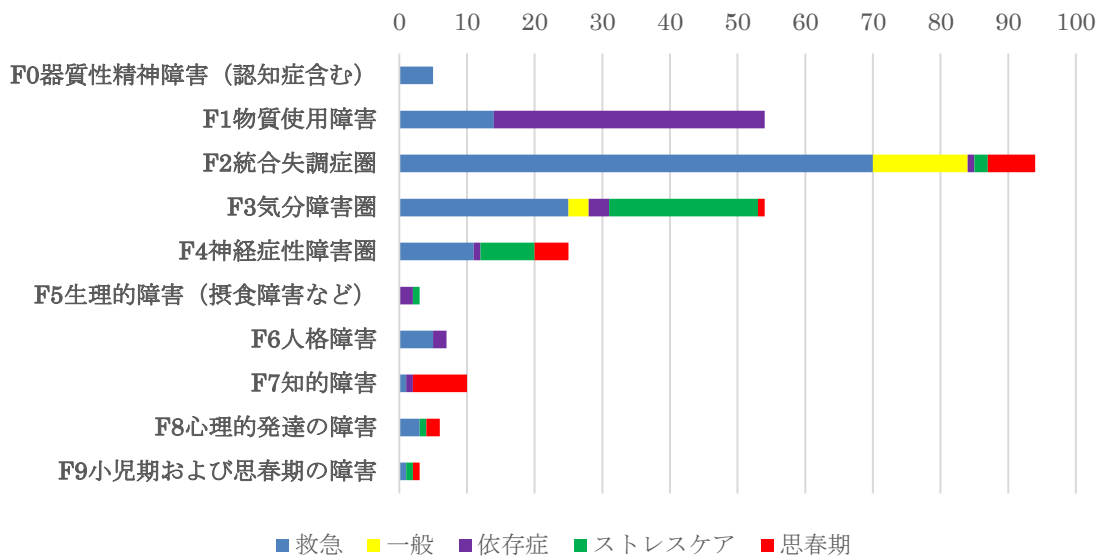
ストレスケア病棟では他院精神科外来で治療を受けていたものが最も多いが、それ以外の病棟では当院精神科外来で治療を受けていたものが最も多い。

エピソード発生から入院までの期間



エピソード発生から入院までの期間は、発症または今回の病状悪化から、入院に至るまでの期間を指す。多くが3ヶ月以内に入院しているが、依存症病棟、ストレスケア病棟、思春期病棟では1年以上経過しての入院も多い。

入院時主診断 (ICD-10)



救急病棟、一般病棟では統合失調症圏が最も多く、思春期病棟では、統合失調圏と知的障害圏ほぼ同数である。ストレスケア病棟では気分障害圏が最も多い。依存症病棟は当然、物質使用障害が最も多いが、少数ではあるが、気分障害、摂食障害、人格障害なども入院している。